

幸福者の自負(ルカ 10:21-24)

人々は自分のことを評価するときに、うわべや何かの条件、外見、また、その人が置かれている状況等を基準にして評価しようとしています。しかし、そのような評価の仕方では、一生振り回される人生になってしまいます。残念なのは、クリスチャンの私たちも自己評価を世の中の人々とあまり変わらない方法でしているということです。なので、信者なのに振り回されっぱなしのとてももったいない、そして、もどかしい信仰生活を送っているのではないのでしょうか。今日、礼拝を通して信者の私は、自分の自己評価をどのようにすべきなのかということを明確に教えられ確認していきたいと思います。

イエス様が神様に感謝の祈りを捧げました。知恵のある者、賢い者には隠して、幼子みたいな愚かな人々、この世の中の評価の基準から見たときには、あまり評価されることのない人々にこの福音を知らせてくださり、信仰を与えてくださったことは神様のみこころです。主の御名をほめたたえます。そのように祈りつつ、弟子たちに向かって、今あなたがたが見ているこれを見る目は幸いなんだ。あなたがたがこれを聞いていることは幸いの人なんだと、そこに集まっている人に向かって、あなたがたは幸いな者、幸福者であると評価されます。でも世の中の当たり前の基準から見たときには、彼らはそのように言われるような要素が何もありません。貧乏ばかりで無学な人がほとんどであり、周りから指差されるような人ばかりでした。なのにイエス様は彼らに向かって、あなたがたは幸いですよとおっしゃいました。なぜなのでしょう。イエス様がおっしゃっている通りに、あなたがたが見ているこれを見ているからなんだ。いま聞いていることを聞いているからなんだ。何を見ていたのでしょうか。目の前にイエス・キリストがいらっしゃいます。イエス・キリストがキリストとしてなさっていらっしゃることを見ています。また、そのことに対してのおことばを聞いているわけです。それが幸いだとおっしゃったわけです。なぜ弟子たちが世の中の条件から見たときには、そう言われる筋合いなどは全くないのに幸いと言われているのでしょうか。信者の私たちの自己評価はどうであるべきなのでしょう。

1. 成就された契約を信じる幸いの人(イエスはキリスト)

まず第一に、今日の聖書で言われている通りに、成就された契約を信じる幸いの人なのです。

それがクリスチャンです。その人の外見、過去、うわべ、条件がどうであろうが、それはその人を幸いの人と評価する材料には当たらないものです。信者はどのように自己評価をすべきなのかと言いますと、成就された契約を信じる幸いの人なんだ。何が成就された契約でしょうか。イエスはキリストですと信じる信仰です。

1) 創世記 3:15、出エジプト 3:18、イザヤ 7:14、マタイ 1:21、16:16

それはどういう意味なのかと言いますと。創造主の神様によって造られた人間、それで特別に神様がともにおられて、幸いの人で、神様の代わりに地球を治めるように祝福されていたのに、その人間が目に見えない悪魔サタンに惑わされて、神様に罪を犯して神を離れることになりました。そのときから人は、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出たものであると。その人は全く気づいていないでしょうけれども、悪魔の子という身分を抱えることになります。根本的に滅びるしかない身分になりました。だから、生まれながら神の御怒りを受けるしかない子らとして生まれるようになり、生まれながら地獄の運命を抱えて生まれてくるようになったわけです。どうしようもない、何をどう頑張っても解決にならない、そういう解決不可能な問題を抱えて、地獄のような人生を生きることになりました。そのような人間に向かって、人間自ら解決する方法がないので、神様がつみびと罪人の人を愛して、その不思議な愛をもってその問題を解決して、人々を救われることを約束されました。それを契約と言います。その契約が何かと言いますと、罪のない女の子孫、神の御子を送ることによって、このすべての問題の元凶である悪魔の頭を踏み砕いて勝利すると、そのようなメシヤ、キリスト送るから、そこに希望があり、そこに救いがあるよと預言されました。そして、そのためにメシヤ、キリストは、あなたがたの解決できない罪を代わりに背負って、犠牲のいけにえとして十字架で死ぬんだよ。それですべてを完了することになると預言されて

いたわけです。そのことによって神様を離れていたあなたがたが、また神様と一緒にになり、いのちが得られるように神様と出会う道を作る。インマヌエルとして神が人とともにおられる。そういう名前をもって、わたしは道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとりとして父のもとに来ることはありません。神様と出会う道を作ることが預言されていました。このようにキリストが送られることで、私たちの問題が根本から完全に解決されることが預言されていました。それが預言にとどまらないで成就されたわけです。マタイ 1:21-23 を見ます。マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である」。これが預言ではなくて成就されました。キリストがこの世に来られたわけです。その方の名前がイエスなのです。それで誰が幸いな人なのかと言いますと、大金持ちや環境に恵まれた人、頭の良い人が幸いな人ではなくて、このキリストがイエス様であり、イエス様こそキリストだということに気づいて、それを信じる人が幸いなのです。なぜでしょうか。それ以外にはどうにもならない人の問題、罪の問題、滅びの運命から抜け出すことができません。いくら宗教にのめり込んでも、いくら頑張っても努力しても、それは悪くはないけれども解決とは 1mm も関係ないものなのです。それを指して霊的問題と言います。それでこのことを一番最初告白した者がペテロという人間です。イエス様に向かって「あなたは生ける神の子キリストです」と告白しました。つまり、あなたは旧約の聖書に預言されていたそのキリストに間違いありません。旧約の預言が成就されましたと告白したときに、イエス様はペテロに向かって「ペテロ、あなたは幸いです」と宣言されました。ペテロは漁師の出身で、頭も悪いし、性格もめっちゃめっちゃでした。それとはまったく関係なくあなたは幸いだと言われました。だから、信者の自己評価は、成就された契約を信じる人、つまりイエス様がキリストだと信じる信仰を持っているから、私は幸いな人なのです。言葉を変えますと、私はいろいろな過去があり、今現在もいろいろな都合や事情があるにもかかわらず、私は人生の根本から変えられた者です。だから幸いです。環境が変わっても人が変わっても、その人の根本が変わることなどはありません。勘違いしないように。今の親が、私がうらやましいなあと思う誰かさんの親にすり替わったとしても、あなたの根本は変わることはありません。そういうことに自分の幸せと自分の幸いを照らして評価しようとするから振り回されるだけなのです。信者なのに。

2) 旧約の預言者や王たちの希望

この地上にキリストが来られた。契約が成就された。それは今日の聖書にもあるように、旧約の多くの預言者が見ようと待望していたことなのに見ることができませんでした。旧約で多くの王たちが立てられました。その王たちがこの成就を見ようと待ち望んでいたにもかかわらず、ダビデもあbアブラハムもモーセも見ることができなかったのに、あなたがたはそれをいま目の当たりにしているのではないかとおっしゃっているのです。それが幸いです。そういう意味合いで、バプテスマのヨハネが旧約のすべての人の中で最高なんだとおっしゃったわけです。別にその人が偉いからではなくて。しかし、天の御国においては、バプテスマのヨハネはいちばん小さい者です。私たちが幸いな者です。なのに朝起きて「今日何か買いたいのにお金がないな。なんて私は残念な人間なのか」。朝起きたら、お父さん、お母さんが小言をばばばっと言うからウワァァ。嫌だな.. ということで自分は嫌な人間だと思いついて思い込んでしまうわけです。それが蓄積されて脳に刻印されるわけです。その人の人格や人生そのものを形成することになります。人の人生は脳に刻印された通りに展開されます。なので今でも遅くありません。特にレムナントの皆さん、レムナントの時に自己評価を正しく聖書にある通りにして、ほかのすべてのだましごとを退けないといけません。親がどんな人間であれ、何と言われようが参考に過ぎないものであって、ペテロに向かって「あなたは幸いです」と宣言されたイエス様の宣言のことばが私のものだと言えないといけません。

3) 世にある良いものでは不可能でありむしろ反対に

この幸い、つまり、イエス様をキリストと信じる信仰は、この世にあるどんなにすごいもの、良いものでも不可能なのです。どんなに良い条件、環境に恵まれていても、成就された契約を信じる幸いとは縁がありません。むしろ私たちが幸せの条件として取り上げている世の中にある良いもの、それはこの信仰を退けて反対の方に走っていくための材料になるのです。そういう意味で知恵のある者、賢い者には教えられないで、愚かな幼子みたいな私たちに神様はこの信仰を与えられましたとおっしゃったわけです。別に賢

いことが悪いわけではありませんけれども、神様を離れていると、人の良いものが裏目に出て、目に見えない悪霊たちがそれを用いて「ほら、いいんじゃないの。良いものがあるでしょ。これでよかったんじゃないの。イエスなんかはいなくてもいいんじゃないの」と持って行く材料にするわけなのです。騙されないように。なので、この世にある良いもので、自分の幸せを天秤にかけるような愚かな真似は、信者の私たちはやめなければなりません。分かりましたか。

2. 成された契約を信じる幸いな人

そして、信者の私たちの自己評価は何なのかと言いますと、成就された契約だけではなくて、完成された契約を信じているので幸いな人です。

たとえお金がなくても、たとえ病気にかかっているとしても、それは幸せの条件ではありません。自己評価の材料になるものではありません。これが本当に皆さんの心の中でアーメンになるために、どれほど叩かれなければいけないかわかりませんが、それほどサタンのやぐらが強く丈夫に刻まれているわけです。それを認めて砕いていかないといけません。違う、私は人から見たときにはだめと言われるかもしれませんが、完成された契約を信じているのではないのか。だから私は幸いな人なんだ。つまり、成就されたというのは、旧約の預言が成就されて、キリストがこの世に來られて、イエス様がキリストとして來られたということなのです。この世に來られたキリストが預言されていた救いの働きをすべて完成なさるわけです。完璧に。いろいろな邪魔が入ったにもかかわらず。最終的には、イエス様に従っていた人々がみな逃げて行くことになったにもかかわらず完成されました。それを私たちは信じるようになったわけです。

1) ヨハネ 19:30

ヨハネ 19:30、皆がこれはもう終わりだと思っていたその十字架の上で、すべてを完了したと宣言しました。何をでしょうか。悪魔の頭を踏み砕くこと、私たちの罪を全部贖うこと、私たちがまた神様と一緒にになって世界福音化が可能になること、それ全部完了したと宣言されました。それを私たちは信じるから幸いなのです。

2) ローマ 8:1-2

なので、そのキリスト、イエスが十字架で死と罪の原理に囚われていた人々を、そこからのちと御霊の原理によって完全に解放される救いの働きが完了したわけです。私たちはそれを信じます。イエス・キリストを信じることで実は終わりなのです。終わっていないかのように言う人が多いけれども、聖化という教理の言葉を取り上げて言う人が多いけれども、それは間違いです。私たちにいろいろ問題があり、弱さがあるということは、終わっていないからではありません。終わったのにそれを通して神様になる計画があるものであって、神に定められた人々は義と認められて、栄光に富んだ者になったと宣言されています。キリストの十字架は足りないところはありません。すべて完了されました。なので、皆さんにどのような問題があろうが終わったからスタートしないとはいけません。だまされるわけです。それを私たちは信じるわけです。何かをやるわけではありません。条件が変わるわけではありません。イエス様がなさったことで私は幸いです。それを信じることができるから。実はそれを信じられたというのは聖霊によらずにはできないのです。神の恵みによって。だから恵まれた人なのです。

3) II コリント 5:17

イエス様は十字架の上で古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなるように完了したわけです。それを信じます。

4) ピリピ 3:20

そして、地上にいながらも天の御国の国籍を持って、天国に入れる保証は全部与えられているように完了したわけです。何が問題なのでしょう。さまざまな問題が起きます。一つ一つが全部問題だと思つて一生振り回されます。それが問題にならないように十字架の上で終わらせました。どのような問題でもキリストの十字架をもって終わったと宣言してからスタートしないと、神のみこころと神の計画は見ることも

できません。いつまで経っても自分本位で目に見えない悪魔に操られるだけなのです。自分なりにこれまでの道徳や倫理や法律や常識やさまざまな基準をもってその問題を見ようとするのですが、裏で悪魔が糸を引いていることを気づかないのです。十字架で終わったでなければ悪魔に勝てる道はありません。これを信仰と言います。これ以外の信仰心は全部宗教です。私たちは完成された契約を信じる幸いな者です。

5) ローマ 1:17

だからパウロは言いました。義人は信仰によって生きる。信仰に始まり、信仰に進ませるからなんだと。スタートも信仰。プロセスも信仰。結論も信仰です。つまり、成就された契約を信じることで、根本が変えられた幸いな者。完成された契約を信じることで、皆さんの過去のすべてが終わったわけです。そういう幸いな者なのです。前にも申し上げましたように、人を殺めて刑務所に入った人が、イエス様のお話を聞いてありがたい。これからイエス様を信じて生きていきますと言いながらも、自分がやらかしたことに對しては一生償いの思いを持って、もしも出たら人にやさしく頑張っていきますと。良い話のように聞こえるけれども、自由にならないのです。ずっと悪魔にその人の過去を通して囚われることになります。私たちの過去は償いの思いでどうにかなるものではありません。世の中ではそれしか方法がないので解決ではないけれども、それを言うしかないけれども、だからキリストが必要なのです。信者は過去に対してそのような基準から見たときには図々しく見られるくらい、もう終わったと自由にならないといけません。キリストはそのため十字架で血を流されました。それがそれほどの値打ちにならないと思うのでしょうか。キリストの十字架を馬鹿にしているのでしょうか。それは悪魔のしわざなのです。だから完成された契約を信じる恵みに預かりましたので、私は幸いな人です。

3. 生きて働く契約を信じる幸いな人

最後にもう一つ、その契約が完成されたで終わらないで、生きて働くようになります。生きて働く契約を信じる幸いな人です。

今、初代教会の人たちは迫害の中で四面楚歌の状態です。にもかかわらず、彼らは生きて働く契約を信じていたので、彼らは幸いな人なのです。私たちも同じです。これから皆さんは周りからいろいろなことを言われるでしょう。今のこういう規模では言われなくてもいいかもしれません。どんどん大きくなって日本が237、5千未伝道種族に宣教する国になるくらいになると、同じキリスト教会から、他の宗教から、政治の方からいろいろな圧力や圧迫、迫害などが当然起きるわけです。そういう状況の中でも、私は幸いと自己評価しないといけません。なんでこんなにつらいことが多いのか。それはつらいでしょうけれども、幸いとは関係ないのです。にもかかわらず、地の果てにまでこのいのちの福音が宣べ伝えられるように生きて働く契約、それを固く握っているから。その契約は流れていくものなので、だから私は幸いなのです。

1) エペソ 1:3、I コリント 3:16

キリスト・イエスを信じている者は、どんな状況であれ、どのような過去がある人間であっても、エペソ 1:3 で言われているように、天にある霊的すべての祝福をいただいている者です。これは刑務所の中で告白したものなのです。刑務所と自分の幸せとは関係ありません。ぜひ自己評価、幸せの基準をしっかりと素直に真面目に切り替えていただきたいと思います。天にある霊的すべての祝福はもうすでに私たちに届いているし、だから私たちのことをあなたがたは聖霊が宿っている神の神殿というわけです。三位一体の神様、創造の神様が私の内側に宿って一緒におられるのです。

2) 使徒 1:3、1:8、1:7

なぜそのように祝福されたのでしょうか。私たち信者を教会と言いますが、使徒 1:3、オリーブ山でイエス様がおっしゃったように、なぜ私たちの内側に三位一体の神様が一緒におられて、神の国が私たちに臨まれるようになったのでしょうか。この世の中には、この神の国でなければ希望はないので、この神の国をあなたがたを通して世界中に広めていきたいとおっしゃっているのです。それが契約です。契約は十字架で終わるのではなくて、地の果てにまでこの完成された契約が動いていくわけです。まず信者の私たちの内側で動くようになります。御座の祝福が私たちの内側で動く体験を先にするようになります。あっ、

なるほど、私は救われたのですが、救われただけではなくて、本当に聖霊が宿っているものに違いないんだということを体験するようになります。それが神の国です。なぜそれを体験させるか。エルサレムからユダヤ、サマリヤ全土、地の果てにまでイエスの証人とするために。そのように神の契約、救いの契約は生きて働いています。そしてなぜ幸いなのかと言いますと、その生きて働く契約をおっしゃる時に、私はいつもこの部分にこだわりますが、1:7、ローマの植民地はどうなりますか。あなたがたは知らなくてもいいよ。つまり、人々が評価するさまざまな条件、環境、状況、いろいろあります。そういう現実のどうのこうのと全く関係なく、生きて働いて地の果てまで行くのだとおっしゃったわけです。関係なく、言い訳などいらないよ。関係なく。私たちはその契約を信じるから幸いです。ローマの植民地でも地の果てにまで、これは関係なく進んでいくわけだから幸いです。私たちは弱い者です。弱い者であるにもかかわらず関係なく、地の果てにまでこの契約が進んでいくことを信じるがら、弱い者なのに幸いだと言えるわけです。すごい迫害によって教会が潰れてみな散らされました。にもかかわらず、地の果てにまで生きて働いて、この福音が宣べ伝えられることになるので、それを信じるから散らばっていても幸いなのです。たとえ石を投げられ殺されることがあっても幸いなのです。これがクリスチャンの幸いです。皆さんは生きて働く救いの契約を本当に信じますか。

3) 礼拝は御座のキャンプ、現場には神の国のこと

礼拝に来るときにそれを信じてこないといけません。柳先生がおっしゃっているように、礼拝はただ週一回集まる会合ではありません。このときに御座の祝福が現れて、皆さんが地の果てにまで証人となるための神の国の働きがなされることを信じて、そこに癒しもあり力もあり、全部入っています。今日、礼拝を通して、そのことがなされるんだということを信じて期待を持って、それに集中して礼拝の一時間を過ごしてみたいと思います。そうすると、残りの時間の過ごし方も変わります。どこに行ってもそのような祝福に預かるようになるのでしょうか。映画館？アイドルのコンサート？感謝でちょこっと献金する以外、会費も何もありませんよ。こんなにすごい祝福を神様が礼拝を通して用意していらっしゃるのに、礼拝が御座のキャンプだということを知らないで、場合によっては親に無理矢理行かされて…。嫌々ながらも来ないよりは来た方がよかったですよ。見えない聖霊のハンマーがその人を叩くので、祈りつつ待ち続けましょう。これが私たちの自己評価です。皆さんが御座のキャンプとしての礼拝の祝福を味わっていると、同時に皆さんと関わっている現場には、主の使いが送られて神の国のことがなされることになります。皆さんの考えと力では到底考えられないことが起こるわけです。つまり、暗闇が砕かれて、神の国が臨まれ、何か動きが起こるようになります。普段皆さんが、ここは全く不可能だろうと思っているそこに、皆さんが礼拝で御座のキャンプの祝福に預かりましたらそうなります。なぜなら契約は今も生きて働いているからです。

4) アンテオケ、アジア、マケドニア、ローマ

それで礼拝を通して皆さんの現場で、その祝福、神の国のことを体験したら、証拠、証人となりますので、本当にアンテオケ、アジア、マケドニア、ローマにまで、つまり 237、5000 未伝道種族のための宣教地までこれがつながっていくようになります。ただ日本は宣教師の墓と言われるところなのです。伝道は絶望的な地とされています。なぜかという、これがないからです。生きて働く契約を信じて、自分の力と関係なく、本当に神がなさる伝道。自分は御座のキャンプによって霊的状态が整えられること。今日申し上げました成就された完成された契約、生きて働く契約を握って、自分の内側の霊的状态が信仰の状態に変えられると神様がなさることを体験しないと、アフリカのジャングルに行っても何を言うつもりなのでしょう。そこは文化も環境もいろいろ違うのに。いくら違っていても同じなのです。それをまず神様は私たちを用いて自分の現場で体験させるのです。これが聖書的な伝道運動です。ぜひ信じてください。皆さんが礼拝の時に先ほど申し上げましたそのような期待と意をもって集中するときに、皆さんの現場に天使が送られて神の国のことがなされることをぜひ信じてください。もしそれがなければ伝道は無理です。

まとめます。今まで申し上げましたように、信者ひとりひとりが自己評価のときに、人間的な基準ではなくて、契約を信じる信仰を基準にして、自分が誰なのかを確認して、自分は幸いな人だという自負をぜひ持ってください。世の中に羨ましい人が誰一人あってはいけません。もちろん信仰の優れた人の場合は、

羨ましいというよりは、ついていく模範、モデルとして見るというのは良いのですが、そうでなくて人間的に羨ましい人間は存在してはいけません。それは皆さんがいま騙されているところなのです。自分を見失っていることです。自己評価が完全にずれているという裏返しです。なのでぜひ私は幸いな者。幸福者だ。条件がどうであれ、どんな問題を抱えていようが、私は幸いな者なんだ。その自負をもって、まず感謝して喜びましょう。そこがないと 777 の祈りに入れないのです。まず引っかかるから。終わった。私は幸いなものなんだ。天にあるすべての祝福を頂いているんだ。聖霊が宿っている者。地の果てにまで証人となれるように三位一体の神様が私を握っている者なのだ。ならば植民地がどうであれ気にしないで、御座の祝福が具体的に私に現れるように。三位一体の神様が人を生かすために導かれるその旅程を歩いていくように。地の果てにまで世界福音化のために神様が用意していらっしゃる答えに従って歩いていこうじゃないか。この 777 の祝福の主人公なんだ。私はこの主人公なんだ。これは私のものなんだと、いやいやながらの祈りではなく自負をもって、まず最初は自分がこういうものだを確認する意味で考えながら、深く黙想しなくてもいいから、とりあえず自分でこんな存在なのか、そうだったっけ？ああ、なるほど、ありがたいな。そういうふうに軽く軽く、でも考えて祈ってください。皆さんの霊的状态が変わると、必ず神様がことをなします。それがそうでなければ聖書は嘘です。生きて働いている契約を信じましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今日礼拝を捧げているひとりひとりが自己評価を人間的な基準ではなくて、契約を基準にして、契約を信じる信仰を基準にして自己評価を正しくして、自負を持って地にあるものではなくて、天にあるものを祈ることができ、自分の願いではなくて、神の願いを祈り、答えの人生を歩けるように祝福を与えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。